

# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の  
横顔

□ 4 □

母校・東栄小で  
公開授業も

尾山画伯は今年、母校の湖陵高校開校八十周年記念式典への出席と旧制釧路中学（現湖陵高校）二十二期会古稀記念旅行のために来釧した。この折、小学生時代に学んだ東栄小学校を訪れ、六年生の図工の公開授業を行った。

六年生が写生した絵を一枚一枚取り上げ、どこが素晴らしいかを児童と対話した。「この絵は百点満点の九十九点。残り一点は、本人がきょうこの授業にいないこと」などユーモアを交えて楽しい授業を展開した。「子どもの絵にあれこれ批評はいらないんです。どの絵も純真な眼差しが感じら

母校・東栄小で絵の指導をする尾山画伯

特別賞

日本画

尾山 幟さん

東京都町田市野津田町一五九七

## 日本画の世界に新風 国の買い上げ作品も数多く

れて、全員が未来の利器ですよ」という。そして「子どもには大きな可能性があります。ほめてやるのが大切。私も小学時代にもうちょっと先生がほめてくれ

ていたら、少なくとも今より絵は上手になっていたでしょう」と笑った。しかし、絵を志す人には「最初はあれこれけなしで、その後でよいところを一つだけほめるのが私のやり方です」と将来性を認めながらも決して有頂天にさせない厳しさを持っていた。

釧路中学から多摩美術学校（現多摩美大）へ進み、昭和二十六年の第七回日展に「緑苑」が初入選し、翌年には「蒼苑」で特選、朝倉賞を受賞した。第十一回日展でも「叢」が特選、朝倉賞、白寿賞に輝き、この作品は外務省の買い上げとなった。

大病後も創作  
意欲盛ん

以後、毎年日展に委嘱出品し、日展が改組された五十二年の第九回展では審査員。出品した「七面鳥」は北海道立美術館買い上げとなった。以後、日展を活動の場に会員として出品を続けている。総理官邸掲額作品は、日展出品の「鶴」「離宮清秋」「秋苑」の三点。

は「秋映」を出品し、その優れた彩調と構成で審査員会賞を受賞した。今年も出品作品は熱帯魚を描いた「群」。「試験の一夜坊主と同じでいまだに締め切りに追われてしまう。今年も無理をして三週間をかけて描き上げたが、夜中の三時前に寝たことのない毎日だった」という。

六十二年に心臓の手術をし、その後も腹部大動脈リゅうの大手術。「よく大病して、無理がききますね。年を感じさせない絵だ」といわれますが、齢など考える暇がないというのが本当のところだそうです。もう「花鳥」を画材に「まだまだ追求することがあります」と創作意欲は盛んだ。

釧新郷土芸術賞特別賞の知らせに「思いがけない賞をいただき、こんなうれしいうことはない。いずれ釧路で個展を開きたい」と故郷・釧路を忘れない。日展で初入選してから四十年、「夢を持って進むことを教えてくれた亡き両親に感謝したい」と話している。

（おわり）

昨年の第二十二回日展に